

# 二中の木

学校報  
第13号  
H29/12/25



能代市立  
能代第二中学校  
TEL52-5138

## 平成二十九年 後期前半までを振り返る 「二中生の足跡」

### 四月・入学式

### 第七十二回入学式！ 百十一名の仲間

4月7日(金)、時折雨の降る中で午後からお客様と二百名を超えるご家族の方々をお迎えして、式が行われました。新入生を代表しての茂哲さんの堂々とした誓いの言葉が、仲間の意気込みも伝えているようでした。



### 二・一中定期戦

### エンジンの結束！ 応援が育てる一体感

開校記念日は、5月1日。5月1日と言えば、二・一中定期戦です。戦った経験のある先輩方は、春・夏の大会より緊張しました。「と言います。全校生徒の期待を裏切ることはい出来ないと強い思いが、そうさせるのだと思います。ラ



### 六月・体育祭、市予選

### 気力と技で表現！ 思いをぶつけるように発信

夏の大会に出場する各部の部員は勿論、大会会場を自転車移動しながら応援に努めてくれた文化部の皆さんにも、貴重な思い出になったのでは？心から感謝しています。



### 七、八月・夏休み

### 夏に駆ける！ 休むことなき二中エンジン

実質22日(土)から始まった夏季休業。カレンダー上は夏休みでしたが、二中生の活躍が止まるわけではありません。29日(土)は、豪華客船の見送りのため二中若有志が、岸壁で音頭上げ、笛、太鼓で送り出しま



した。客船の乗客全員がデッキに出て手を振ってくれました。夕日が沈み始めた日本海に、白く泡立つスクリーンの軌跡を描きながら、また来るね！」の声と紙テープをなびかせて、船は静かに黄金色に輝く沖へと消えてゆきました。思い出は光、色、風、香、感情の記憶となっていつまでも残ります。消えない夏の思い出となりました。



### 夏休み明け・二中祭

### 仲間との偶然の出会い！ 二度とない偶然こそが大切

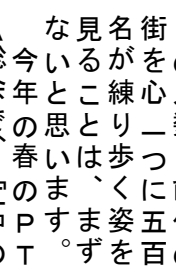
自分達が楽しむためにやるのではない。」と言って始まった、二中祭の準備。その志は素晴らしいと思えます。でも勿論、生徒の皆さんのための二中祭でもあります。二中生は、そのあたりのメリハリについてはよく心得ていますので、当日も立派な役割を果たしながら、地域や保護者と一緒に楽しむことが出来ていました。行事の回を重ねる年が進むほどに、仲間との絆が深まることを実感したようです。



# 九月・おなごり

## 迫力！ 五百名のうねり

保護者も含めたこの人数。能代の街を心一つに五百名が練り歩く姿を見ることは、まず今年春のPTA総会で、二中の



生徒、教職員、保護者等の関係者が集まれば、ひよっとしたら能代で一番大きな団体のひとつではないか。もし、この集団が心一つに行動したら、相当なことが出来ますね。」と言いました。その通り、このことが出来たと思っています。



# 十月・総合学習

## 根ざして生きる！

## 人に「習う」ことの大切さ

正確には、「総合的な学習の時間」と言います。10月18日（水）、各学年

がそれぞれのテーマで、体験を中心とした学習を行いました。二年生は、青年会議所からお客様をお招きし企業

### 1年生 職業講話等



経験、職業人として必要な資質、働くことの楽しさや厳しさ等についてお話を聞き、質問や感想を述べるといった活動を行いました。午後には、

### 2年生 宿泊体験等



二年生は、秋田市にあるユースパルでの宿泊体験の他、秋田市内17事業所で職場体験も行いました。職業体験のポイント

### 3年生 文化体験等



三年生は、地域の指導者が教えてくれる伝統文化の体験的な活動をしました。能代風作り、華道、木工等は活動の一例です。作品やパフォー

マンスの出来映えもですが、地元の指導者が各分野の伝統・文化にどんな思いを寄せているのかについて、交流活動を通じて理解を深めたいと思います。「習う」は、時に「学ぶ」以上に大事です。

# 十一月・七〇周年行事 から冬休みに向けて

## 今にも生きる！ 薫り高い文化の伝統

七〇周年式典や記念行事に一区切りが付いた頃、北羽美術展の入賞者が発表になりました。



習字では、上野さんの金賞を始めとする半紙13名、条幅4名が入賞しました。絵画では、福田さんや佐藤さんの金賞を含めて9名が入賞しました。七〇周年が終わったばかりと言いうこともあって、校旗を題材にした作品は目を引きました。写真は、伊勢さんの銀賞受賞作品です。受賞した皆さん、おめでとございました。

## 冬に鍛える！



- 自主 学習には攻めの姿勢
  - 不屈 自分を見つめる正しい目
  - 友愛 全力投球の潔さ
- ※守りでは気力は生まれにくい  
※行動には慎重さと欠かさない  
※限界の壁を押しやる努力

## 蕪の香

### もろて茶碗の 中に咲く

秋多

唇ご飯に食べてと、千枚漬けを頂きました。保存技術の進歩で、年中あるものなのかもしれませんが、やはり、蕪と言えは冬のもの。明るく鮮やかな黄色の柚の皮からは、爽やかな香り。口に含めば、お漬け物の酸味と一緒に香りが立ちます。ご飯にのせた一片は、粗飯に咲く花とも思えてきます。千枚漬けと言えは、京都では、「お煤払い」の行事が終わった頃でしょうか。



気付けば、11月23日（木）の七〇周年行事から一ヶ月が経過しています。



同窓会等の大人だけの行事ではないことを二中生は、参加への姿勢や意気込みで示してくれました。母校二中への思いが、今回の行事を通して

更に強まったとすれば、このことにこそ意味があったと思います。多くの関係者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

今年も終わろうとしていきます。二にかかわる全ての方々の新年の幸いと心からお祈りしています。

